

視聴覚教育

NO 155

発行日
元. 9. 1発行
岡崎市AVL編集
広報委員会

生涯学習へのアプローチ

—東海北陸地区AVL研究協議会を終えて—

現職教育視聴覚部部长 加藤 憲 尚

去る八月二十二、二十三の両日にわたって、東海北陸地区視聴覚ライブラリー研究協議会が、岡崎市民会館を会場にして開催された。東海北陸六県から二日間で延べ七〇〇人が参加し、熱心な協議がなされた。

この協議会は、学校教育や社会教育における視聴覚機器、教材の供給機関である視聴覚センター・ライブラリーの充実、振興を図るため、視聴覚教育関係者及び利用者の参集を求めて、視聴覚センター・ライブラリーの当面する諸問題を研究協議する会である。

岡崎市でこの会が開催されるのは初めてである。運営にあたっては、市教委社会教育課の方をはじめ、現職教育委員会視聴覚部の先生方の献身的な働きがあり、盛会裡に終えることができた。

さて、久しぶりにこの会に参加してみても、会そのもののパターンは従来と全く変わっていないが、内容は、時代を反映して、ぐっと新鮮さを増していた。かつて私がライブラリーを担当していた頃は、「もの・かね・ひと」の悩みが多く聞かれたが、今回はそうしたことはあまり表面に出ず、情報化時代にふさわしい話題が多かったように思う。また、放送を録画して利用する際の「著作権問題」については、従来より多少関心は高まってはいるようだが、まだ、十分理解するまでには至っていないように思えた。

今回のテーマが、「生涯学習の援助・促進を図るための視聴覚センター・ライブラリーの在り方」とあるように、臨教審の答申を受けてクローズアップされている生涯学習の立場から討議が進められた点、大きな特色であったといえよう。とりわけ、第二日目のシンポジウムでは、文部省の照井始先生をはじめ、日本の視聴覚教育の中核をなう先生方が登壇され、「生涯学習におけるメディア学習の在り方」について話された。この会を締めくくるのにふさわしい内容の濃いものであった。

視聴覚ライブラリーの果たす役割りは、ますます重要になって来た。新しいメディアと共に業務内容も多岐にわたるようになった。三十万都市岡崎も、いよいよライブラリーから視聴覚センターへの移行を真剣に考える時期が来ていることを痛感した二日間であった。



VTR実技講習会に参加して(アンケートより)

八月二、三日の二日間、連尺小学校でVTR実技講習会が開催された。照りつける日差しの中、受講生の方々は額に汗しながら、ビデオカメラを回し、時間に追われながら、編集作業に真剣に取り組まれた。社会教育班へ参加された受講生の声を拾ってみました。

参加者の

声

★今回、お城(建物)をテーマに撮影したが、人物や動物などの動きのあるものをもう少し撮れば、良かったと思う。撮影の時間が短かったのが残念。ハード面の解説がもう少しあれば良かった。

★撮影についての細部のアドバイス(三脚を使用、できるだけ静止した画像等)が非常に参考になりました。

★編集を意識して撮影したことがなかったの
で、コンテの制作から、編集まで一貫して作品づくりをしたことはとても意義があつたと思う。

★実際にカメラを回してみると、静止画像をたくさん撮ったつもりでも、動いており、難しいものだと感じた。



機械操作・作品制作に関する感想以外に「初め

て会った人達と協力して、一つの作品を作り上げる楽しさを味わうことができた」という感想もあつた。

ライブラリーだより

自作TP作品募集について

市内の小中学校に勤務する先生で、自作したTP教材を募集しています。楽しいアイデア作品、カラフルな物語TPなど、どしどし応募下さい。(応募者全員に参加賞)

■規定

- (1) 一時間または、一単元用で、教科・領域は自由
- (2) 一人一作品で、TP枚数は制限なし
- (3) 未発表の創作で、作成方法は自由

■その他

作品は、厚手の封筒に入れ応募個票の一枚を表に貼付、TPの枚数を明記して下さい。またTP一枚ごとに校名・氏名を記入して応募個票十枚とともに同封してください。

■応募先

岡崎市視聴覚ライブラリー ☎25-3000
10月11日(水)必着/太陽の城一階

「伊勢湾台風」の映像活用を!

今年で三十年をむかえる伊勢湾台風。当時の生映像がライブラリーに保管してあります。授業等でご活用下さい。(詳しくはライブラリーまで)

- ・伊勢湾台風 県政ニュース 45分
- ・伊勢湾台風 復興の歩み 23分